

水田農業の担い手確保と農地の永続的な活用

(対象：東部農業事務所農畜産課)

【評価できる点】

- ・「地域の水田農業は近年の米価下落で担い手のやりがいにつながらず、衰退している」現状をよく理解している。担い手の高齢化や後継者不足、農地集積の遅れといった地域課題を明確に捉え、現実的な課題解決の方向性を示している点が評価できる。
- ・耕地面積及び農家数の維持、改善について集中的な対策をとっていることを初めて知った。組合員と普及員との座談会で出てきた意見、課題についてこれからも丁寧に向き合ってほしいと思う。
- ・いずれの手段も今時点の生産現場で必要な対策である中、設定目標についても現実的な範囲であると考えている。
- ・先進的な利用調整組合の選定がされたのは成果にも表れている。農地集積は、利用調整組合を中心に座談会や地図化を進め、農地のマッチングや受け皿づくりに一定の成果を挙げている。
- ・スマート農業の推進は、生産者の関心の高い技術の実証がなされ、管内あるいは県内他地域への普及が期待できる内容であると感じた。
- ・乾田直播栽培は今注目されており、実証できたことは立派な成果である。乾田直播の施肥方法の今後の検証・成果についても非常に期待している。
- ・担い手組織の経営力強化は、法人の病虫害防除体制強化など技術課題に対し、具体的な改善策を導入するなど前向きな取組が見られた。全体的に、活動は計画に沿って着実に実施され、成果と次の課題が明確化された点に意義があると感じた。
- ・担い手不足という深刻な課題に対して、農地集積・組織経営強化・省力技術導入を三位一体で進めた点で高く評価できる。本活動は地域のリーダー的存在を軸に推進され、一定の成果と新たな課題の可視化に繋がったと思う。

【改善・強化に向けた検討事項（意見・要望と対応策）】

1 課題や目標設定に関すること

◆意見・要望

- ・農地の受け手側だけでなく、出し手側も参加していただいた地域計画の策定が必要だったのではないかと。また、農地の集積・集約には強いリーダーシップが必要とされるが、その支援の中心になって「あるべき姿」を探求してほしい。

【回答】

出し手側は、平日昼間の時間帯に座談会へ出席いただけないなど、時間的制約もあるため、今後座談会を開催する場合は、開催時間を検討する必要があります。

関係機関と連携して「あるべき姿」を探求していきたいと思います。

- ・数値目標が限定的であるため、地域全体への波及効果や担い手世代交代の仕組みづくりなど、より長期的なビジョンを加えると一層効果的であったと思う。

【回答】

3年間の目標設定であったため、今後5年、10年を見据えた目標も検討しながら、課題解決をしていきたいと思います。

- ・農地集約や法人運営に係る経営力強化については、より具体的な方策（地図情報データを活用した見える化とマッチングの組み合わせ、構造改善等の基盤整備等との組み合わせ等地道ながらも成果が期待できる取組）が検討頂けると良いと感じた。

【回答】

いただいたご意見を参考に検討していきたいと思います。

- ・水田農業における各課題解決に向け、現地へ入り、積極的に活動していることは評価できるが、一つの課題の中に農地、担い手、栽培技術など多くの課題を盛り込みすぎており、全体が理解しづらかった。また、設定された目標にしてもどの対象に対してかわかり難かった。

【回答】

ご指摘いただいた内容を参考に、課題の内容と成果を整理していきたいと思います。

- ・解決手法として省力化に注力することで、対象の2地区の担い手確保につながるのか疑問が残った。

【回答】

ご指摘のとおりと思いますが、省力技術は、大規模に水田経営を行う上で必要となってくる栽培技術のひとつです。今後、担い手が少なくなっていく中で、少数の担い手に農地が集積していく状況となり、大規模化した中でも水田経営が成り立つように省力技術の取組が必要と考えています。

2 活動内容に関すること

◆意見・要望

- ・今回の活動は地域水田農業の持続可能性に向けた重要な一歩であり、今後は成果の定着と広域展開に向けた取組に関係者が一体となって取り組んでいくよう、指導いただきたい。

【回答】

関係機関と連携して、2地区だけでなく、太田市の水田農業が持続していくように支援していきます。

- ・引き続き、スマート農業や省力技術というキーワードのようにスピード感をもった支援体制や取組の継続を期待したい。

【回答】

スマート農業や省力技術の情報収集を行い、実証ほの設置などを通じて支援していきます。